

(別紙)

県庁舎耐震改修事業（本庁舎（本館））

パブリック・コメントに寄せられたご意見と考え方

お寄せいただいたご意見： 2件
(電子メール2件)

ご意見等の要旨	ご意見に対する考え方
<ul style="list-style-type: none">・ 本館は建築後 50 年経過しているが、現在の建物を今後何年使用する想定なのか。・ 建築物の耐用年数の残りが少なく、無駄ではないか。	<ul style="list-style-type: none">・ 鉄筋コンクリート造の建物は、適切な維持管理を行えば、100 年程度使用が可能と考えられています。今後も適切な維持管理を実施しながら、使用していきたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none">・ 移転できないのか。・ 空港の近くや吉備高原都市などに新庁舎を建ててはどうか。	<ul style="list-style-type: none">・ 別の場所に新築するには、場所の選定に期間を要し、事業費が極めて高額になります。従って、早急に耐震化を行う必要があることや本県の財政状況等を総合的に勘案し、現庁舎の耐震化を進めていきたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none">・ 免震工法と耐震補強とのコスト比較を公表しないのか。	<ul style="list-style-type: none">・ 免震工法と在来工法について、コストを含めメリット・デメリットを比較検討し、総合的に判断して、免震工法に決定しました。
<ul style="list-style-type: none">・ 仮設庁舎を本設庁舎として恒久的に使用することはできないか。	<ul style="list-style-type: none">・ 事業評価委員会でも、長期的な視点から恒久的な利用を検討すべきとのご意見をいただいております。その方向で考えています。
<ul style="list-style-type: none">・ 今回の計画では、県庁舎が水没することが想定されていないが、津波等は大丈夫なのか。 地下の電気室に浸水し水没すれば停電する。その対策はどうするのか。・ エネルギー関係の設備が地下 1、2 階に設置されているが、水害や台風に対する考慮はしているのか。 庁舎の海拔は何mなのか。	<ul style="list-style-type: none">・ 東南海・南海地震を想定した津波浸水予測調査では、県庁舎の位置については、浸水が予測されていません。・ 浸水対策として、地下室が水没しないように、地下室部分の壁は二重構造とし、周囲からの浸水をポンプで排水しています。・ 防災施設等の電源は、屋上等に設置した非常用電源設備で確保し、浸水時でも供給可能としています。・ 庁舎の海拔は約 5 m です。